



国公立大学の合格率 過去最高55%を記録

湖陵高校をこの春に卒業した生徒の国公立大学現役合格率は、統計が残る1960年以降で過去最高を記録しました。国公立大学の合格者延べ数は131人で、卒業生の約55%という結果になりました。東京大学や京都大学などのいわゆる超難関校の合格者こそいませんが、多くの生徒が自分の志望する国公立大学に合格できたことは本当に素晴らしいこと

であります。

合格者の多い大学は北大14人、弘前大19人、北海道教育大20人、釧路公立大15人などです。東北大や筑波大あるいは国際教養大などの有名難関大学でも合格者が出ています。一方で私立大学に目を向けますと、早稲田大や東京理科大の各6人を筆頭に、上智大や国際基督教大などにも合格者を輩出しました。医学部医学科は国公立合計で4人が合格しています。

今年度のセンター試験には223人が出願しました。5教科7科目900点

満点の校内平均点は文系理系ともに約608点と健闘。多くの生徒が国公立大受験のボーダーラインを超えて二次の個別試験に臨むことが出来ました。また、「最後まで諦めない」という信念を持ち、後期日程を受験した生徒が65人。そのう



この41人が見事に合格をつかみ取ったことも全体としての好結果をもたらしたようです。

湖陵高校は2003(平成15)年度から3年間、文部科学省より「学力向上フロンティアハイスクール」の研究指定を

受け、きめ細やかな進路指導を模索する中で進学実績を伸ばしてきました。それ以前の国公立大学合格率はだいたい30%前後であったのが、指定事業以降は40%台後半から50%前後という数字を維持し続けています。「志を高く、易きに流れない」という進路指導理念の下、「受験は団体戦」という意識を生徒全体に持たせてきたことがこのような結果につながっていると考えられます。

近年、国公立大学では後期日程の廃止に伴い、全国的に見ると、募集の少ない中期・後期日程を敬遠する受験生が多いようです。合格発表から入学までの日程面できついことも要因のようですが、自分の目指す進路の方向性と合致する大学があるのならば出願をして受験することを着実に実行するよう指導を続けました。事前の大学調べは大切なものです。8月下旬に実施している「統一学校説明会」も一定の役割を果たしているものと考えています。講習、模擬試験を積極的に利用していた生徒、併願校を真剣に検討

し続けた生徒が、大学入学がゴールとまらないことを認識して闘いに挑み、国公立、私立を問わず多くの大学へ合格していった結果といってもよいでしょう。

田中嘉寛(湖陵36期)

目次

湖陵の話題(合唱部)	2頁	各地の湖陵会(関西・東京・札幌)	6頁
同(米国領事と交流・普通科で推薦も)	3頁	29期還暦同期会・教職員湖陵会	7頁
活躍する湖陵生(羽生さん)	4頁	当番期日より・学校祭・編集後記	8頁
同(石井さん、小泉さん)	5頁		



「クイーン」の旗の下に 第36回合唱部定期演奏会

湖陵高校合唱部（高坂良修顧問・湖陵31期）の定期演奏会が3月30日、鉦路市幣舞の鉦路市生涯学習センターで開かれた。合唱部（仙石珠希部長）ら23人は、2時間 に渡り、合唱曲に、ロックのソロ、デューオ、全編英語のロックの名曲、そして手づくりのミュージカルに、エネルギーあふれる熱唱、熱演を繰り広げました。

演目は第Ⅰ部のコンクール課題曲、第Ⅱ部は英ロックバンド「クイーン」の代表曲合唱、第Ⅳ部の準創作ロックミュージカルで構成。第Ⅱ部の「ボヘミアン・ラプソディ」は「ウィー・ウィル・ロック・ユー」を足で床を蹴って2拍、手拍子で1拍と、いわゆるドンドンチャの大きな音が響かれました。歌詞

楽譜があった」とことと、昨年末から全国で大ヒットした映画「ボヘミアン・ラプソディ」を部員らと一緒に見に行ったことが「火をつけました」と説明。

第Ⅲ部「ナナシロ国物語」は架空の共和国が舞台です。合唱好きな「カナデール派」を嫌いな「ハモラーヌ派」の対立抗争に明け暮れています。大統領が強権でこれらの勢力を解散させようとしています。けれど少女レイラの努力によって2派の勢力は和解し大統領に翻意させます。かくして、共和国が平和を迎える一があらすじです。台本は佐藤美夢さんの書き下ろしで、この演奏会



高坂顧問が指揮した熱演の生徒客席に向って謝辞

の実行委員長も務める行動派です。器楽部、野球部の応援もあって、全員登場の最後の場面は圧巻でした。

高坂顧問は「コンクールで

はリフレインで耳になじんだ曲です。ランニングシャツと腕にタトゥを施した男子が前に進みマイクを倒して「アイ・ワズ・ボーン・トゥ・ラブ・ユー」を披露。フレディ・マーキュリーになりきった。第Ⅱ部が実現したのは、高坂顧問が「手元に30年以上も前の国内で発行された

受賞するのも重要です。けれどもクイーンを学ぶことによつて、エイズとか、移民問題、性的マイノリティ（LGBT）を学び、それらが今日の日本社会にも共通の問題だということなのです。半年前の演奏会と練習の日夜を思い出すようでした。

この演奏会に昨年まで部長を務め、今は東京芸大1年生の加藤凜さんが会場に駆けつけ、「この道」など2曲をハーフトイムに披露、美しいソプラノを響かせたことを付記します。

堀川春昭（湖陵12期）



第Ⅱ部で「アイ・ワズ・ボーン・トゥ・ラブ・ユー」を熱唱、フレディ・マーキュリーになりきって



第Ⅲ部で「ナナシロ国物語」を熱演、白いボンチョがユニーク

米国領事招いて交流 53人の生徒 英語だけで



初めて米国領事館を招いた交流会

釧路湖陵高校は6月25日、在札幌米国総領事館のレイチェル・ブルネットーチェン首席領事を招き、生徒との交流会を開きました。米国領事を招くのは初めての取り組みで、生徒たちの「国際性」を育成するのが目的です。この日は、海外留学や外交官に興味のある53人の生徒が、英語だけで挑戦しました。

交流会でチェン主席領事は、「同総領事館は北海道と東北4県を管

轄し、在日米国民向けに、出生届、連邦年金、不在者投票の登録などの業務を担っています」などと説明しました。

また、自身の高校生の時、交換留学生として初めて来日した際の経験を振り返り、「ほとんど日本語はわかりませんでした。ジェスチャーで意思疎通を図ることができました」などと振り返っていました。さらに、留学することで「自分の世界が広がり、学べることは非常に多い。若いうちは周囲も助けてくれます。ぜひ(留学に)チャレンジしてください」とエールを送っていました。

2年連続 山岳部女子、全国へ

6月25(28)日、釧路市阿寒町の雌阿寒岳、雄阿寒岳などで開かれた「第58回北海道高等学校登山選手権大会兼第63回全国高等学校登山選手権大会北海道予選会」で、釧路湖陵高校山岳部の女子チームが最優秀賞に輝き、8月に宮崎県で開催される全国大会への出場を果たしました。山岳部の全国大会出場は3年連続で、女子は2年連続、男子チームは優秀賞でした。

今大会には男子13チーム、女子12チームが参加しました。女子チームは、昨年と同じメンバーで挑みました。

リーダーの伊藤涼葉さん(3年)は「北海道の代表として、みんなの思いを乗せて頑張りたい」と意気込みを語っていました。

2019年6月29日付釧路新聞より
星 匠(湖陵30期)

生徒から「英語をうまく話せるようになるためには、どのようにしたらよいですか?」との質問に対してチェン主席領事は「あまり完璧を求めないこと。片言でも英会話をしてみると分かることがたくさんあります」と答えていました。

外国語部長の須藤千歌さん(3年)は「このような交流会はあまりないので、とても勉強になりました。大学生になったら、ぜひ留学にチャレンジしたい」と話していました。

2019年6月25日付釧路新聞より
星 匠(湖陵30期)

普通科も推薦を導入 来年度の入試から

釧路湖陵高校は、2020年度の入学者選抜から、普通科も推薦入試を導入します。さらに人材育成を充実させることが大きな目的です。19年度の募集人員は、理数科40人(うち推薦20人)、普通科200人(推薦なし)でした。北海道内の各管内を代表する進学校の普通科では初めてのことで

す。

今回設定した普通科の推薦入学枠は定員の20%。面接と作文などで判定します。求

めている生徒像は①大学進学を進路目標とし、知的探求心があり、主体的に学ぶ意欲を持っている生徒②基本的な生活習慣を身に付け、生徒会活動や学校行事、部活動などに積極的に参加できる生徒などです。

同校では「開校以来の伝統『文武両道』の精神を体現でき、意欲と特色のある生徒に目指してほしい」と話していました。

2019年6月19日付釧路新聞より
星 匠(湖陵30期)



閉会式で表彰されるリーダーの伊藤さん(右)とサブリーダーの高木杜萌さん

みずみずしい釧路湿原 6年ぶり羽生輝作品展



日本画家（釧路市）

羽生 輝さん（湖陵12期）

釧路ゆかりの日本画家、羽生輝さんが6月、釧路市の南大通ギャラリーで6年ぶりに作品展を開きました。前回は、故順子夫人と2人展で、羽生さんの絵画と夫人の遺作である磁器を展示。2人は湖陵同期なのにくわえて、夫人の追悼を兼ね話題となりました。

タブローを塗り込めた黒い海面、黒い漁家といった題材にこだわる羽生さんは「黒いマックスの画家」と言えなくもありませんでした。厳冬、深い沈黙に沈んだ闇、北の岬の「さいはて感」が、風土を形造ります。

羽生さんの日本画は、どちらかといえば、花鳥風月や美人画に代表されるものは異なり、むしろそれを否定して油絵的、

西洋画的なタッチにこだわり続けました。「難しい黒をどのように作るのですか」と尋ねてみました。ガラスの破片、タバコの灰、炭（すみ）を砕いた粉末をふるいにかけて、乳鉢で混ぜ合わせて作った「黒」で実際に深みのある黒ができるということです。いわば「ハニニュー・ブラック」とでも名付けましょうか？

今回の展示会で注目すべき「靄（もや）う釧路湿原」（100号）に出会いました。一昨年の創画会に入選したものです。50年以上になる画業の中で、様変わりな作品です。コバルトと若緑の2色だけで、夏の湿原を描き上げました。細い一筋の蛇行する川、雲の影に脱色した太陽、あとは一面の夏草が繁茂する湿原で、画面に薄い半透明

の膜がかかったような仕上げです。前に近づきルーペで画面を見ると、数え切れない無数の透明な粒々、水滴が、夏草のうえに満遍なく描かれていました。一口にいつて日本画的、あるいは山水画に近似した感じを持ちました。この湿原を、しかもみずみずしく豊かな風土として描いた画家はいたでしょうか？「近くに住んで、いつでもス

ケッチに出かけられるから」と羽生さんは釈明します。が、この靄まみれの原野は、受け狙いの新境地よりむしろ半世紀を経たのちの到達点でないかと思われまます。しかも、伝統と対決挑戦してつかまえたものでしょう。同じ構図の「悠々釧路湿原」があり、赤と黒の2色だけで晩秋の夕景を描いたものと比べて見るとよくわかるはず



羽生輝さんの「霧う釧路湿原」

す。羽生さんは母校湖陵の美術講師として勤めて15年。「美術を専攻して、デザインや美術の方面に進む生徒は少ないけれど」と断って、2人の生徒が描いたリングとタマネギのデザイン画を見せてもらいました。正確で折り目正しいデッサンで、赤、茶色の色合いが浮かび上がる錯覚におちいるような仕上がりがです。「この教室で学んだ手技が、医師や会社員になった場合でも役立つと新時代に生きる生徒へ期待を寄せるのでした。

堀川春昭（湖陵12期）

視野を広くして



「好奇心を旺盛に」と語る石井さん

石井兄弟社(東京)代表取締役

石井 至さん(湖陵36期)

元旦の午前中くらいでした。大変な仕事だと思いましたが。ただ、その頃、死に対する恐怖があったそうで「不老不死の研究をしている先生がいる」と聞き、医学部に入りました」と話します。

石井至さんは、観光ビジョン構想会議など国の方向性を決めるさまざまな委員も務めています。石井兄弟社のアンテナ・プレススクールが主催する「こども鶴の絵コンテスト」は、石井さんが中心となって釧路の知名度アップを図る目的で始めるなど、釧路、根室地域の観光のアドバイサーも務めています。

高校時代の思い出は「湖陵祭」。行灯行列では恐竜を製作しました。「一生懸命につくりましたが、優勝することができず、残念な気持ちでいっぱいでした」と当時を振り返ります。

高校を卒業した石井さんは、東京大学医学部に進学します。「医学部に進学しましたが、医者になるつもりではありませんでした」と言います。「叔父は医者でしたが、ほとんど休みがなく、ゆっくりできるのは

元旦の午前中くらいでした。大変な仕事だと思いましたが。ただ、その頃、死に対する恐怖があったそうで「不老不死の研究をしている先生がいる」と聞き、医学部に入りました」と話します。

医学部を卒業し「実力主義の会社に就職したい」と選んだのが、アメリカの投資銀行でした。資産を安く買い、時価変動により資産価値が高まったタイミングで売り、利益を生み出すことをタイミングと言います。銀行やクライアントから得たお金を使ってディーリングを専門的に行うのが金融ディーラーと呼ばれる職種です。石井さんはそのディーラーに。

自ら商品を開発するなど、めきめきと頭角を現しましたが、32歳の時に独立して現在の石井兄弟社を立ち上げました。同社は、出版、コンサルティング、講演、そしてアンテナ・プレススクールでは子供たちを指導しています。

最後に、世界に目を向けてきた石井さんは現役の生徒たちに「好奇心を旺盛にして、視野を広くして物事をみてほしい」とアドバイスしていました。

星 匠(湖陵30期)

大好きな風景で盛り上げたい

パステル画家(釧路市)

小泉千里さん(湖陵47期)

かつて誰もが慣れ親しんだクレヨン画のような懐かしさとともに、その淡くて幻想的な色合いに魅せられてしまうようなパステル画。特に最近、さまざまな媒体を通じても見かける機会が多くなっているのが、小泉千里さんの描いたパステル画です。

「湖陵高校に通っていた当時は、全く絵画に興味はなかったんですよ」と笑う小泉さんが絵を、しかもパステル画にのめり込んだのは、進学した釧路公立大学に入学しからのこと。以来、それまでは気に留めることも少なかった郷里の風景の美しさ、素晴らしさに目覚め、夕焼けの幣舞橋や釧路港、新緑の釧路湿原や夏の阿寒湖など、道東の風景画を中心に描き続けてきました。

2008年に初めての個展をNHK釧路放送局のギャラリーで開催して以来、あち



「釧路のすばらしい風景をアピールしたい」と小泉さん

こちらから展示会の誘いもかかるようになり、今春には東京銀座のギャラリーでの個展開催も成功させた小泉さん。「まだまだ未熟な私の絵ですが、いつの日か釧路の素晴らしい景色を、全国や世界の人々にアピールできれば」と、最近では自作品をパッケージに入れ込んだボールペンや手ぬぐい、小さな原画をそのまま入れたイーゼル型の額装、さらにはアクリル樹脂にパステルの粉で着色し、天然水晶を埋め込んだキーホルダーやネックレスなど、いずれもワンコインで買える手軽な「みやげ品」も作成。これらの「作品」は、MOOや空港、山花温泉リフレなどで販売されているほか、大型クルーズ船が入港した時の特設売店などでも販売され、外国人観光客にもとても好評を持って迎えられています。

「まだまだ画家一本で食べていけるほどの自信はありません」と謙遜する小泉さんですが、会社勤め時代に取得した「色彩療法士」の資格も活かしながら、道新文化センターなどの絵画教室で多くの「生徒さん」にパステル画の魅力と奥深さを伝えていく、「釧路の魅力伝道師」なのです。

西村貞広(湖陵30期)

関西湖陵会

第12回関西湖陵会が、各地湖陵会のトップを切って5月25日に大阪市内のヴィアール大阪で開かれ、関西在住の同窓生を中心に約30人が参加しました。

校歌斉唱に続いて小川清至会長(湖陵17期)があいさつ、来賓を代表して釧路市の蝦名大也市長(同29期)、釧路湖陵同窓会の島本幸一会長(同19期)、札幌湖陵会の稲村尊史会長(同26期)、東京湖陵会の割方俊介副会長(同28期)がそれぞれ祝辞を述べました。



関西湖陵会に参加した同窓生

懇親会は、西田皞至さん(同7期)が乾杯の音頭をとり始めました。話題は、昨年暮れに春の選抜高校野球21世紀枠の候補に選ばれながら、残念ながら甲子園出場が果たせなかった野球部のこと。そのほか、釧路で過ごした青春時代の思い出や近況を報告したり、最後には応援歌を合唱するなど、終始和やかな雰囲気で行われました。

東京湖陵会

第30回東京湖陵会(諏訪幹雄会長・湖陵23期)総会が、6月15日に東京都内の日本青年館ホテルで開かれ、同窓生146人が参加し、懇親を深めました。

校歌斉唱のあと諏訪会長は「会場を久しぶりに日本青年館ホテルにしました。ここに集った老若男女のみならず、楽しく過ごしてください」とあいさつしました。続いて来賓を代表して釧路湖陵高校の西堀隆亮校長(同30期)が、「今年3月の卒業生は、国公立大学の合格者が延べ131名で過去最高でした。来年の入試から普通科も定員の20%で推薦を導入します」と同校の近況を説明しました。

懇親会は、釧路湖陵同窓会の島本幸一会長(同19期)が乾杯の発声をして始まり、公務のため遅れてきた釧路市の蝦名大也市長(同29期)があいさつをしました。参加者は、高校時代の思い出話に花を咲かせ、「ふるさとの味」が当たる抽選会や応援団のパフォーマンスなどで楽しんでいました。



応援団に合わせて手拍子を行う同窓生

札幌湖陵会

第33回札幌湖陵会(稲村尊史会長・湖陵26期)の定期総会が7月6日に札幌市内のポールスタール札幌で開かれ、214人の同窓生が参加しました。

校歌斉唱に続いて稲村会長は「短い時間ですが、明るい未来の話で懇親会を楽しんでください」とあいさつしました。来賓を代表して釧路湖陵高校の西堀隆亮校長(同30期)が「後輩たちと過ごす時間は楽しい。在校生の支援を引き続きお願いします」、釧路湖陵同窓会の島本幸一会長(同19期)が「生徒たちは文武両道で頑張っています。8月10日は釧路で同窓会総会を行いますので、ぜひ参加を」と祝辞を述べました。

懇親会は、石井忠雅さん(釧中31期)の乾杯の発声で始まり、ステージでは中川晋さん(湖陵11期)が指導した応援団などが披露され、盛り上がりました。来年の当番期は同37、38期で、7月4日(土)に同じ会場を予定しています。

なお、役員改選も行われ、新役員は次の通りです。(敬称略)

- ▽会長 稲村尊史(同26期)
- ▽副会長 浅沼和明(同28期)、長浜光弘(同32期)
- ▽幹事長 鹿又智峰(同30期)
- ▽幹事 畑みゆき(同28期)、佐藤浩司(同35期・新)、残間渉(同45期)
- ▽会計 佐藤里枝(同33期)、小波朋子(同42期)
- ▽会計監査 菊地克保(同13期)
- ▽名誉顧問 中川晋(同11期)
- ▽顧問 伊藤拓摩(同21期)



石井さんの乾杯で始まった懇親会

還暦記念の同期会



還暦を記念して開かれた湖陵29期同期会

釧路湖陵高校29期（1977年卒）の還暦同期会が、2019年2月16日に釧路市内のANAクラウンプラザホテルで開かれました。同会には、関西方面をはじめ全国各地から92人が出席し、旧交を温めました。

はじめに幹事長の半澤孝一さんが「たくさんの同期生が集まり感謝しています。今日は楽しんでください」とあいさつ、校歌を斉唱したあと半澤幹事長の乾杯で懇親会が始まりました。29期は、毎年8月に釧路市内で開催される釧路湖陵同窓会の際に、参加者が集まり交流を深めてきましたが、大規模な同期会は3回目です。懇親会では、クラスごとに一人一人が自己紹介を行い、近況や高校時代の思い出と合わせて語り、金安潤子さんが中締めを行い一次会を終了しました。半澤幹事長は「次回は70歳を迎える年に開催したいですね」と話していました。

星匠（湖陵30期）

※同期会、クラス会を「くまざさ編集委員会」では募集しています。掲載をご希望の方は、くまざさ編集委員会の星までお願いします。（連絡先は8ページに記載しています）

釧路教職員湖陵会総会

釧路教職員湖陵会（小向聡会長・湖陵29期）の令和元年度総会と懇親会が、来賓に釧路湖陵同窓会の青木一晃幹事長（同27期）を迎え、7月13日に釧路市内のアクアベールで開催され、令和元年度の事業計画などを話し合いました。



教職員湖陵会の新会長に選ばれた本川さん

令和元年度の事業計画などを話し合いました。新体制では、会長に本川敬一さん（同33期）、釧路市立阿寒湖小学校校長）、副会長に伊藤晃一さん（同32期・同共栄中学校校長）、新谷修さん（同32期・同青葉小学校校長）、瀧本浩之さん（同36期・鶴居村立

会長に本川さん

幌呂中学校校長）、遠藤浩一さん（同33期・同鶴居小学校校長）、幹事長に長谷川充夫さん（同43期・同鶴居小学校教頭）、副幹事長に奥田真由さん（同36期・釧路市立桜が丘小学校教頭）、富田直子さん（同40期・釧路町立富原小学校教頭）、市川仁さん（同42期・標茶町立虹別小学校教頭）、会計長に吉田多喜衣さん（同31期・釧路市立鳥取西中学校）、会計幹事に岩谷拓実さん（同39期・浜中町立散布中学校教頭）がそれぞれ就きました。

また、11月9日（土）には、恒例の研修会が講師に星匠氏（同30期・釧路新聞社代表取締役社長）を迎え、開催されるとの、楽しみに報告がありました。

奥田泰朗（湖陵25期）

新刊案内



元教諭 神成さん新著 「永久にたたかわぬ国」



釧路湖陵高校で教鞭をとっていた（1974年〜84年）神成洋さんの著書「永久（と）にたたかわぬ国」敗戦・占領下を生きる」写真Ⅱが、2019年6月1日に七つ森書館から発行されました。満州から引き上げてきた神成さんが、戦後の米軍占領下の中で体験したことをまとめました。価格は2000円（税別）。問い合わせは同社03（3818）9311まで。

当番期だより

このたびの幹事作業を振り返ると、かつての同級生の所在を探ることが一番の課題でした。どのよう調べればよいか皆目見当がつかない状態のなかで、個人間の繋がりが思わぬ広がりを見せ、今ではSNSを通じ百人を超えるグループができております。この機会に同期の誼(よし)みと再会できたことに望外の喜びを感じるとともに、非常に意味のある幹事作業

第69回湖陵祭、賑やかに開催

今年も夏休み前の、最後のビッグイベント「第69回湖陵祭」が賑やかに執り行われました。今年も7月11日(金)、12日(土)、13日(日)の3日間にわたり、在校生たちは溢れる若さと情熱を注ぎ込みました。

11日の前夜祭からスタートした湖陵祭のメインイベントは、翌12日夕方からの行灯行列。幸い好天にも恵まれ、生徒たちは沿道に居並ぶ大勢の市民の声援を受けながら北大通を行進、声をからしながら湖陵健児の存在を強烈にアピールしていました。

西村貞広(湖陵30期)



なつたものと思っております。また、広告のお願いのためお伺いをお願いした企業の皆様や、会券購入のお願いのためお伺いした諸先輩からは、温かい激励のお言葉と多大なご協力を賜りましたことに、心から御礼申し上げます。おかげをもちまして、本日10日、同窓会を迎えることができました。至らぬ点も多いとは思いますが、諸先輩方のこれまでのご尽力を引き継ぎながら、幅広い世代が語り合い、楽しく活気あふれる会になっていければ幸いです。なお、同窓会パンフレットに

は、市内はもちろんのこと、遠方においても活躍されている諸先輩方の広告が掲載されております。湖陵同窓生の地域における影響力の大きさを改めて感じていただき、ご所用の際には是非ともご利用いただければと思います。この度の総会が皆様にとって例年通り穏やかで意義深いひとときとなりますよう、釧中・釧路湖陵同窓会皆様の益々の発展と、釧路湖陵高校の一層の活躍を心よりお祈り申し上げます。

佐藤公一郎(湖陵47期)

編集後記

私は昔の湖陵高校の近くに住んで居ます。旧住居表示は富士見町65です。平成2年9月に校舎移転後、跡地は道職員集合住宅、ハローワーク釧路が建っています。

私が母校に通っていた3年間、は、旧富士見町60で学校まで2分位、チャイムが鳴っても間に合いました。近くに住んでいたため図書委員にされ、本の貸し出し、暖房のルンペンストーブの灰出し、石炭詰替の作業を任せられました。昭和28年2月に出火炎上し、全焼したので火の始末に注意を払いま

した。

出火当時、我が家は幣舞橋の北橋詰にあり、我が家から通学し、卒業を控えていた母の妹、宮崎玲子(父一雄(当時46)は大声で「湖陵が火事だ。机、イスを一脚でも多く運び出そう」と呼びかけました。

私が外に出て湖陵の方角を見ると冬の夜空が真っ赤になり、恐ろしさを今日も覚えています。私が5歳の時の出来事でした。

田巻恒利(湖陵18期)

釧路湖陵高校

〒085-0814
釧路市緑ヶ岡3丁目1番
TEL(0154)43-3131
ホームページ
<http://kushiro-koryuohp.infoseek.co.jp/>

くまざさ編集委員会

- 同窓会会長 島本幸一(湖陵19期)
- 同窓会会計長 佐藤文昭(湖陵22期)
- 編集委員長 星 匠(湖陵30期)
- 編集委員 堀川春昭(湖陵12期)
- 編集委員 奥田泰朗(湖陵25期)
- 編集委員 田中嘉寛(湖陵36期)
- 編集委員 西村貞広(湖陵30期)
- 編集委員 須貝喜治(湖陵49期)
- 編集事務局長 田巻恒利(湖陵18期)

くまざさ編集委員会

〒085-08650
釧路市黒金町7-13
TEL0154(22)1111
FAX0154(22)0050
釧路新聞社内 星 匠